

しら、いくら考えてもわかりません。

Yちゃんは口数のすくない、気の弱い、おとなしい子どもでした。あまりお友だちと遊ぼうとせず、だまって見ている方が多かったようです。それだけに幼稚園の生活になじみがたかったのでしょう。

また彼は私たち保育者を悩ます「絵を描きたがらない子ども」だったのです。お絵描きのときは、首を横に振って、頑としていません。それでも七月までに、二・三回は描いたでしょうか。そのときは、おもしろくないような顔をしながら、丸を描いたり、線をなぐり描きする程度、描かないときはだまって人の描いているのを見たり、いたずらをして歩くのです。

いずれにせよ、登園しなくなった原因は、まだはっきりつかんていせんが、ひとり子どもを途中から失ってしまったこととその子の心境を察することは残念で仕方ありません。そしてまた私の頭にこびりついて離れない、同じように絵を描きたがらない二・三の子どもの顔、いなかのことです。で入園するまでクレヨンなど手にする機会のすくなかった子どもにとって、クレヨンをもって自由に表現することはむずかしかつたのでしょうか。Yちゃんも、その他の子も、それぞれ異った原因を持っているでしょう。しかしここでそれを取り上げることもできませんので省きますが、初心者第一におつかった悩みであり、問題です。原因を追求し、どうしたらこの子どもたちに楽しく、しかも自由にのびのびと表現させるかが、現在の私に課せられた研究題目であり、また今後も取り組まねばならぬ問題でしょう。

ここに取り上げた問題はほんの一例にすぎず、私にとってはあら

ゆることが研究の対象です。

地方の幼稚園にいと、欲しいと思う参考書も手に入らず、つい研究が中途半端なものになってしまいがちですが、今後全力をついて問題にとりくんでいきたいと思っています。

(幼稚園教諭・会津)

「日常の記録のこと・ 知能テストのことなど」

菊地 明子

毎年、学年末に私たちのしなければならぬ重大な仕事に、指導要録の記入があります。一年間の保育のあと、ひとりひとりの子どもの顔、動作を頭の中に画きながら「肌の工合は……」「鼻汁はどうだったかな」などと自分で作った不完全なメモをみたり、日誌を読みかえしたりしながら、少しでも、その子どもの本当の成長のあとを、なるべく良心的に正確に記録したいと思って頭をいためるのです。そして、いつも、記録をしながら思うことは、来年は何とか能率的で最も適切に、各領域についての子どもたちの行動をとらえるような様式を工夫してやってみようなどと思うのですが、まず、恥かしいながら一学期の中はそういうノートをうろずめていた文字もだんだん閑散となって来たり、平均に記録がいきとどかなかつたり、という、あまりみっともない状態ではなく、とうとう三学期を迎えるあたりまでです。

とくに幼稚園の場合、出席日数のように数字で現われるものが少なく、ほとんどが日常の観察記録にたよるほか、方法がない面が多いのですからたいへんです。そして結果的に、半分勘にたよったりする場合がないともいえません。

改訂された指導要録の解説書にはいろいろな補助簿のことについて説明がありますが、まとまって実際に使えるもの、となると、またちがってくるようです。まったく個人の自由にかませられている形で、その先生によってまったく結果を異にする場合もあるでしょう。結局、先生の個人差ということになりそうです。

「指導の記録」の記入をより良心的にし、かつ日常の指導に役立つような保育手帖? のようなものがほしいと思ったりします。

それから評定尺度のことについては、各項目にあたって何か基本的な標準があればと思います。こうした評価に関しても先生方の考え方(ごく常識的なものはさておき)指導の態度によっても、だいちが違ってきますし、よくよくの話し合い、研究のすえ、最も適切と思われるものができたら、と思っています。

幼稚園教育要領の、六領域を、どのように配分し、それを子どもたちによく結びつけ指導していき、最後まで持っていくか、ということも日常の保育で考えるときにも、広い意味で補助簿、もつとせばめて、日常の記録をどのようにしたらよいか、もうすこし考えていきたいと思っています。

それから、知能テストのシーズンに、年々、思うこと一つ。これをおこなう前後の処置について。いろいろな専門の立場の先生方から、御意見や、御指導があるようですが、実際に私の身近で起る家庭での話題をきいておりますと、はたして、これでいいのかしらと思わ

れることがたびたびあります。親の知能テストに対する異状な関心と、頭がいい・悪い、能力がある・ない、という価値判断をそこに現われた数字でし、今後の正しい指導に役立てるところか、子どもに以外な刺激や、重荷を与えていることです。こうした親の教育はなかなかむずかしい問題とは思いますが、何とかしなければ、と思うことです。

(幼稚園教諭・東京)

思いつくままに

庭瀬貞子

私が幼児教育に心を注ぐようになった遠因は、幼いころ教えていただいた日曜学校の幼稚科の先生でした。フェリス女学校を卒業なさった美しいかたでした。先生のおことは何にも記憶に残っていません。ただ清らかなやさしい先生の印象が、幼な心にしつかり刻みつけられ、成長した私の心にも生きています。「清いものを幼児の心に彫刻したい」これが私の幼児教育の念願であり、一しよに働く先生方すべてに望んでいる一事です。

よい幼稚園であるためには人格のすぐれた先生を得ることです。個々の先生の持つていらっしやる特技を、たがいによく縦糸横糸に織りこんで、調和のとれた色彩を出すことです。現在、私は園舎も施設も地域環境もまことに申し分がないので、幼稚園それ自体には当面する困難な問題はありません。

強いてあげるならば建物の二階が短大保育科生の教室であるた